

2011年度（平成23年度）

# 事業報告

2011年4月 1日から  
2012年3月31日まで

社団法人 部落問題研究所

## 「2011年度事業報告」目次

- 1 部落問題に関する各種の調査研究・・・1
  - (1) 部落問題の歴史的研究・・・1
  - (2) 現在部落問題論・人権論の研究・・・2
  - (3) 人権と教育に関する理論的・実証的研究・・・3
  - (4) 人権に関わる文芸の研究・・・3
- 2 創立60周年事業「部落問題解決過程の研究」に関する事業・・・4
- 3 部落問題関係資料の収集・保存・整備及び紹介に関する事業・・・4
  - (1) 部落問題関係資料の収集・・・4
  - (2) 資料室の整備・充実・・・4
  - (3) 研究図書資料の収集・・・5
  - (4) 関係図書の紹介・・・5
- 4 関係図書の編集・刊行に関する事業・・・4
  - (1) 『人権と部落問題』を毎月2700部、増刊号2冊を含めて年14回刊行した・・・5
  - (2) 紀要『部落問題研究』の197, 198, 199, 200輯を各800部刊行した・・・5
  - (3) 関係図書の編集と発行・・・6
- 5 講習会・講演会・研究会の開催及び講師の斡旋に関する事業・・・6
  - (1) 研究会の開催・・・6
  - (2) 第49回部落問題研究者全国集会・・・6
- 6 庶務事項・・・7
  - 役員会、監事監査、委員会、所内会議、会員の移動状況等

## 2011年度事業報告

### 1 部落問題に関する各種の調査研究

#### (1) 部落問題の歴史的研究

地域における人権・民主主義をめぐる状況や運動の今日的展開をふまえながら、部落問題を前近代から戦後の現段階までの歴史展開の総過程の中で位置づけるとともに、各時代の全社会構造の中で具体的に把握する研究に取り組んだ。前近代分野では、身分的周縁研究と「賤民」身分研究を、地域社会の構造とその展開との関連において、また身分（制）社会全体の構造の中でとらえること、近現代分野では、人権と民主主義の歴史的展開とその特質を明らかにすることを軸とした地域史の再構成をめざすことや、近現代日本の人権問題とそれに関連する社会運動を解明すること、などの方針をそれぞれ掲げて研究を推進した。

特に、2009年度から科学研究費助成事業（科研費）の交付を受けて遂行されている、次の二つの共同研究と連動しながら進めてきた。

#### ①基盤研究（B）「身分・身分的周縁と部落問題に関する地域史的研究」

（研究代表者・鈴木良、2012年度まで）

#### ②基盤研究（C）「戦後社会運動史の実証的研究－北原泰作文書の分析を通して－」

（研究代表者・廣川禎秀、2011年度まで）

①においては、前近代から近現代に至る地域社会構造の一貫した把握という方法により、日本社会における部落問題の形成、展開、解決の過程を実証的に明らかにすることを課題として、前近代・近代の15名からなる研究組織を編成して研究を進めている。

前近代分野で部落問題研究所は、部落問題研究者全国集会・歴史Ⅰ分科会などを通じて、身分と身分的周縁研究の中心的な位置を占めてきた。第48回研究者集会（2010年）では「近世都市における非人身分研究の発展をめざして」をテーマに江戸と大坂の検討を行い、その成果は『部落問題研究』197輯・特別号に掲載した。2011年の第49回部落問題研究者全国集会では中世の遊女（芸能と身分）、近世の神職（宗教者と身分）、かわた（法と身分）に即して具体的な報告・議論を行った。また、藤本清二郎著『近世身分社会の仲間構造』が部落問題研究所から刊行されたが、同書については、『部落問題研究』199輯に書評（片岡智氏）を掲載した他、科研費①研究会でも書評会をおこなった（3月10日）。

一方、近現代分野でも地域史や社会運動史の再構成をめざして研究を進めてきた。第49回部落問題研究者全国集会・歴史Ⅱ分科会では、「行き倒れ」から近現代日本の構造的特質に迫る報告と、これに関するコメントを得て討論を行った。

こうして、前近代史、近現代史それぞれの成果を統合して地域社会構造を前近代から近現代まで一貫してとらえる研究が、科研費研究①とも連動しながら進めてきたのである。

以上のような研究方針・活動のもと、歴史研究会及び第49回部落問題研究者全国集会歴史Ⅰ・Ⅱ分科会を、科研費研究会とも連動（共催）し、また他学会とも協力しながら、以下の通り開催した。

- 【歴史研究会】 ※会場は明記した他は部落問題研究所
- 7月23日 佐賀 朝：東京の居留地付き遊郭（科研費①研究会）
  - 9月24日 吉田ゆり子：近世浦賀の長吏について（科研費①研究会）
  - 3月11日 大都市における警察行政と地域社会・地域支配一戦前期の東京と大阪の研究一（科研費①研究会／大阪府教育会館）
    - 大日方純夫：首都東京における警視庁と地域支配
    - 飯田 直樹：近代大阪における警察社会事業と方面委員制度の創設
- ※日本史研究会近現代史部会、大阪歴史学会近代史部会と共催

- 【研究者集会】 10月23日（科研費①②研究会／同志社女子大学）
- 10月23日 歴史Ⅰ分科会 〈前近代における身分史研究の発展をめざして〉
    - 辻 浩和：中世前期における〈遊女〉の変容
    - 志村 洋：摂津西宮神社における神職争論と支配
    - 安竹貴彦：紀州藩の吟味筋と牢番頭
  - 歴史Ⅱ分科会 〈「行き倒れ」と近現代の日本社会〉
    - 竹永三男：近現代の「行き倒れ」（行旅病人・行旅死亡人）の実態とその救護・取扱からみた日本社会の特質
    - 高岡裕之：コメント「戦前日本における行旅病人・死亡人救護事業をめぐる」

②については、北原泰作文書研究会において北原泰作文書の主要史料を総合的に研究することや、部落問題の解決過程をふくむ地域社会における民主主義の発展過程を多面的・総合的に解明し、戦後社会運動の発展過程を具体的に考察することを課題として、近現代史を中心に11名からなる研究組織で取り組みを進め、3年間の研究期間が終了した。最終年度（2011年度）は、『部落問題解決過程の研究』第1巻（歴史篇）を主な検討材料として、以下の研究会を開催した。

- 4月29日 広川禎秀：二論文（尾川昌法論文、大森実論文）について
- 8月20日 森下 徹：佐々木隆爾論文を読んで
- 12月10日 広川禎秀：『部落問題解決過程の研究』の成果について
- 1月21日 広川禎秀：『部落問題解決過程の研究』の成果—鈴木良2論文を中心に
- 3月17日 鈴木 良：広川禎秀「部落問題解決理論の史的考察」について

なお、北原文書については、資料（3032点）のカード・データのパソコン入力作業を完了した。

## （2）現代部落問題論・人権論の研究

【現代部落問題論・人権論研究会】 ※会場は部落問題研究所

年来のテーマである部落問題解決過程に関する問題などをとりあげて研究会を開き、報告・討論を行った。

- 7月30日 丹羽徹「長谷川憲法学における部落差別」
- 3月23日 奥山峰夫ほか「部落問題解決過程の研究について」

【研究者集会】 10月23日（同志社女子大学）

第49回部落問題研究者全国集会「現状分析・理論分科会」では、「同和行政終結の取

組みと地域の人権課題」のテーマを設定した。本分科会では、同和行政終結に関する問題、地域における人権諸課題への取組みの問題、その他人権課題に関する問題を報告テーマとしてとりあげてきたが、今回もこれを踏襲して以下の三報告をうけ、意見交換を行なった。

- 10月23日 三枝茂夫「埼玉における同和行政終結の取組み」
- 一井義光「地域における雇用保障の取組み—京都府福知山市—」
- 奥山峰夫「大阪府人権問題に関する意識調査報告書の検討」

### (3) 人権と教育に関する理論的・実証的研究

【教育研究会】 ※会場は部落問題研究所

適宜例会を実施してきた。各会のテーマ及び報告者は次の通りである。

- 5月22日 谷口幸男「和歌山県における市民性の教育について」
- 7月17日 生田周二「生田周二ら『青少年育成・援助と教育』（有信堂）をめぐって」
- 9月24日 宮嶋邦明「社会認識の発達」
- 12月18日 藤田美佳「結婚移住女性の学習と社会参加」
- 3月17日 ロルフ・ゴロップ「ヨーロッパにおける“民主的シティズンシップ・人権教育”（EDC）の動向と課題」

【研究者集会】 10月23日（同志社女子大学）

第49回部落問題研究者全国集会・教育分科会（テーマ「子どもの社会認識の発達と人権認識」）では、二つの報告とコメントにもとづき、活発な論議を展開した。

- 10月23日 宮嶋邦明「子どもの社会認識の発達」
- 大川克人「人権認識を育てる教育実践」
- 川本治雄「コメント」

「人権教育の構成概念と構造に関する基礎的研究」（2010年度～2012年度／研究代表者・梅田修）で申請し、採択された科学研究費補助金は、2011年度で二年目に入ったが、次の三つの「研究の目的」を定めて研究の前進をはかった。

- 1) 国際的な人権教育論の到達点として、人権教育が主権者形成あるいは社会権などの対国家的な枠組みで構想されていることを検証する。
- 2) 日本の人権教育が、精神主義的・道徳主義的实践（自他の人権を尊重する教育）に傾斜する傾向にあることを検証する。
- 3) 「主権者形成」を目標とした人権教育実践を対象にして、人権認識の内容及び人権認識と感情・態度との関連について検討する。

### (4) 人権にかかわる文芸の研究

【文芸研究会】 ※会場は部落問題研究所

従来どおり隔月に例会（第176～181回）を開催してきた。各回の期日・報告者およびテーマは、次に示すとおりである。

- 176回（4月3日）  
桑原 律「小林明『失路』（『総合文化』1948年8月）を読む」
- 177回（6月5日）

秦 重雄「山里アウグスト『七人の出稼ぎ』を読む」

178回（9月25日）

川端俊英「『処女地』創刊と藤村の女性観」

179回（11月27日）

部落問題研究者全国集会・文芸分科会および文芸研究会の今後について

提案 — 秦 重雄・川端俊英・桑原 律

180回（1月22日）

小原 亨「黒川みどり『描かれた被差別部落—映画の中の自画像と他者像』」

181回（3月31日）

『部落問題解決過程の研究』第2巻（教育・思想文化篇）について

秦 重雄「戦後部落問題文芸と研究の到達点」

川端俊英「部落問題解決過程にみる戦後文芸の一側面」

小原 亨「部落問題解決過程への演劇・映画の作用」

なお、上記例会における報告と討議の主な内容は、毎回発行の「文芸研究会ニュース」に掲載している。また、月刊『人権と部落問題』に掲載の「文芸の散歩道」は、本研究会が担当しており、1999年10月以来、通算146回を数えている。

【研究者集会】10月23日（同志社女子大学）

第49回部落問題研究者全国集会・文芸分科会では、〈テーマ：『青鞥』100年に寄せて〉に基づき、次の報告と討議を行った。

10月23日 秦 重雄「愛薄きものへの『青鞥』のまなざし」

川端俊英「『青鞥』後続誌『処女地』の提起するもの」

## 2 創立60周年記念事業「部落問題の解決過程に関する研究」に関する事業

- (1) 2006年通常総会は、創立60周年記念事業として、当研究所の総力をあげた共同研究「部落問題の解決過程に関する研究」を実施することを決定した。
- (2) 2006年度以降共同研究を進め、各分野での執筆を推進した。2010年度は、『部落問題解決過程の研究』第1巻（歴史篇）を刊行し、2011年度は、『部落問題解決過程の研究』第2巻（教育・思想文化篇）を刊行した。
- (3) 予算は研究実施期間を通しての額とし、特別会計として扱った。

## 3 部落問題関係資料の収集・保存・整備及び紹介に関する事業

- (1) 部落問題関係資料の収集  
歴史・現状・運動・行政・人権・教育・文芸に関する資料の収集を進めた。
- (2) 資料室の整備充実
  - 1) 2010年度は、別架の蔵書類を除き、第1資料室（開架式）の図書・資料（約3万点）のパソコン入力を終えた。2011年度は書架の整理を進めるとともに、準備中の第2資料室（閉架式）に収蔵する図書・資料を整理し、目録作成を行った。
  - 2) 「北原泰作関係文書」（3032点）のパソコン入力が完了した。

(3) 研究図書資料の収集

磯村幸男『日本古代の賤民』（同成社）他7点の図書資料を購入した。

(4) 関係資料の紹介

『人権と部落問題』『部落問題研究』『会報』において、関係資料の紹介をおこなった。

4 関係図書の編集・刊行に関する事業

(1) 『人権と部落問題』を毎月2700部、増刊号2冊をふくめて14回刊行した。特集のテーマは、次の通りである。

- 「子どもの権利と保育」（5月）
- 「近世身分社会の授業」（6月）
- 「公害問題と人権」（7月）
- 「平和学習の展開」（8月）
- 「青年の現状と未来」（9月）
- 「震災・原発から人権を考える」（9月増刊）
- 「同和行政の終結」（10月）
- 「現代の貧困と生きる権利」（11月）
- 「『日の丸・君が代』問題」（12月）
- 「震災・原発と子どもの人権」（1月）
- 「アイヌ民族の現在」（2月）
- 「住民自治と同和行政の終結」（2月増刊）
- 「教科書が変わる—中学校」（3月）
- 「『3・11』からの復興」（4月）

連載「世界のくらしと文化」は、次の通りである。

- 「インドー女性をめぐる問題」（5月）
- 「インドー女性のエンパワメントをめざして」（6月）
- 「インドー村の女性の变化」（7月）
- 「トルコ—トルコ共和国・都市化の進む国」（8月）
- 「トルコ—トルコにおける『マイノリティ』・アレヴィーを中心に」（9月）
- 「トルコ—トルコにおけるアレヴィーの活動」（10月）
- 「トルコ—都市におけるアレヴィーとセマー」（11月）
- 「ペルー—アンデス高地に暮らす人々」（12月号）
- 「ペルー—アンデス高地 農村の闘牛」（1月号）
- 「ペルー—アンデス高地の褐色のキリスト像と『最後の晚餐』」（2月号）
- 「ペルー—アンデス高地農村の社会関係」（3月号）
- 「モンゴル—モンゴル国の社会変化と遊牧民」（4月号）

(2) 紀要『部落問題研究』の197、198、199、200輯を各800部、4回刊行した。主な論考は、次の通りである。

197輯 第48回部落問題研究者全国集会報告

- 198輯 立石麻衣子「若者を対象とする社会教育職員（ユースワーカー）の専門性に関する一考察」  
「研究の足跡」その2「脇田修、脇田晴子氏と部落問題研究」
- 199輯 生田周二「Some Approaches to Human Rights Education」  
「研究の足跡」その3「鈴木良氏に聞く（1）」
- 200輯 広川禎秀「部落問題研究の新段階」  
「研究の足跡」その3・続「鈴木良氏に聞く（2）」

(3) 関係図書編集と刊行

- ①部落問題研究所『部落問題解決過程の研究』第2巻、教育・思想文化篇（A5判、438頁）
- ②藤本清二郎『近世身分社会の仲間構造』（A5判、402頁）

5 講習会・講演会・研究会の開催及び講師の斡旋に関する事業

(1) 研究会の開催

歴史、現状分析・理論、教育、文芸の各分野ごとに研究会を開催した（詳細は各研究会の項参照）。

- 2011年4月 3日 文芸研究会  
4月29日 総合研究会－『部落問題解決過程の研究』第1巻（歴史篇）  
5月22日 教育研究会  
6月 5日 文芸研究会  
7月17日 教育研究会  
7月23日 歴史研究会  
7月30日 現状分析・理論研究会  
9月24日 歴史研究会  
教育研究会  
9月25日 文芸研究会  
11月27日 文芸研究会  
12月18日 教育研究会  
2012年1月22日 文芸研究会  
3月11日 歴史研究会  
3月17日 教育研究会  
3月23日 現状分析・理論研究会  
3月31日 文芸研究会

(2) 第49回部落問題研究者全国集会

2011年10月22日(土)～23日(日)に、同志社女子大学（京都市）で123名の参加を得て開催した。全体集会（一日目）では、久富善之（一橋大学名誉教授）の問題提起「格差・貧困の拡大と教師・学校にとっての課題」にもとづいて、活発な議論を展開した。二日目は、5分科会（歴史Ⅰ、歴史Ⅱ、現状分析・理論、教育、文



芸) ごとに報告・討論を行った。

## 6 庶務事項

### (1) 役員会

1) 理事会は10回開かれ(於: 部落問題研究所)、研究所の事業運営について審議し、執行した。

第1回 議事 ①理事長・常務理事選任の件  
(4月29日)

第2回 議事 ①会員動向  
(6月10日) ②諸規定の改訂について

第3回 議事 ①「公益法人社団法人部落問題研究所会費規程」の改訂について  
(7月1日)

第4回 議事 ①部落問題研究所研究協力員の委嘱について  
(7月23日)

第5回 議事 ①公益法人申請に関わる諸問題について  
(9月2日) ②入会者について

第6回 議事 ①『部落問題解決過程の研究』第2巻の発行部数と定価について  
(10月21日) ②『部落問題解決過程の研究』第1巻の増刷について

第7回 議事 ①公益法人申請に関わる諸問題について  
(11月11日) ②『人権と部落問題』誌の連載企画について  
③「記念論集」の続刊について

第8回 議事 ①公益法人申請について  
(2月3日) ②入退会の承認について  
③会費滞納者について

第9回 議事 ①公益法人申請について  
(3月30日) ②入退会の承認について  
③総会開催について

第10回 議事 ①通常総会議案について  
(4月21日) ②公益法人申請に関わる諸問題について

第11回 議事 ①通常総会議案の最終確認について  
(4月29日) ②総会開催について

2) 監事(4名)は、4月23日、2011年度の業務執行状況、財産状況等について監査し、これを承認した。

### (2) 委員会

2006年度より委員会体制を整理して、二つの委員会体制(編集委員会・研究委員会)をとっている。編集委員会を12回、研究委員会を6回開催し(於: 部落問題研究所)、所管の事項を審議した。

### (3) 所内会議

理事・職員の合同会議(所内会議)を5回開催し(於: 部落問題研究所)、事業の

運営について協議した。

(4) 会員の異動状況

2010年度末の会員総数は、508名であった。2011年度の入会者は、普通会员13名（うち2名は維持会費をも支払う普通会员）、退会者は81名（うち1団体は賛助会員）である。退会者が多かった主要因は、会員の高齢化ならびに長期にわたる会費滞納者を定款第一二条第一号に基づく会員資格の喪失としたことである。

2011年度末の会員総数は440名で、その内訳は、議決権のある普通会员402名（維持会費を支払う普通会员26名、1団体を含む）、賛助会員34名（団体を含む）、特別会員4名であった。

2012年4月

社団法人 部落問題研究所